

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年6月4日

60秒でわかる「コロナリバウンド」

【松崎雑感】

抗ウイルス薬パクスロビドに重症化リスクの89%低下効果があることは新型コロナ情報（211113）で報告しました。

パクスロビドは5日間の経口投与で治療完了です。しかし、その後また発熱などの症状が再発し、陰性化したPCRも再陽性となる症例が相次ぎました。

でも、数日後には症状も収まり、PCRも陰性化して治癒と判定されます。

この現象を「コロナリバウンド」と称しています。予後は良好なのですが、症状の再燃時は、二次感染のおそれがあるので自己隔離が必要です。

60秒でわかる「コロナリバウンド」

Mahase E. **Sixty seconds on . . . covid rebound.** *BMJ*. 2022;377:o1365.
Published 2022 May 30. doi:10.1136/bmj.o1365

(カウントスタート) リバウンド・コロナ？

急性期の症状が収まり、検査もマイナスとなったのに、2～8日後に症状が再発しPCR検査も陽性となる人がいます。これを「covid reboundリバウンド・コロナ」と言います。

パクスロビド・リバウンドと同じですか？

そうです。CDCは、重症化リスクのある人々に対するパクスロビド5日間投与終了後にこの現象が起きることが多いと言っていますが、この薬剤を使わなかった場合も、ワクチン接種がる場合もない場合にも起きることが分かっています。

リバウンドした後どうなりますか？

今のところ、再陽性者がその後重症となった報告はありません。

特別な治療なしに、3日後には検査もマイナスとなります。

この現象はパクスロビドのトライアルでは見つかっていましたか？

トライアルでは、少数例ながら、検査がマイナスになった後、再陽性になる人々がいたことが報告されています。

パクスロビド投与終了後の方がPCRでウイルス量が多くなっていた人もいました。

しかし、このリバウンド現象はパクスロビド群にもプラセボ群にもみられました。

「症状がすぐに再燃する現象は、新型コロナウイルス感染症の自然経過であり、パクスロビド投与あるいはワクチン接種の有無との関連を示すものではない」とCDCは述べています。

これは再感染と言えるのですか？

CDCはこれまでの知見から、この現象は再感染とは言えないとしています。

しかし、リバウンド中の患者から他の人々への感染が起きる恐れはあります。

したがって、リバウンド中の患者は少なくとも5日間は自己隔離を行う必要があるとされています。

これは歓迎すべきニュースではありませんが…

リバウンドする患者では再隔離が必要だという事は、パクスロビド治療が大丈夫なのかという疑問を抱かせます。

しかし、重症化リスクの高い人々の軽症～中等症感染に対してパクスロビド早期投与を勧めるという新型コロナ治療ガイドラインに変更はありません。

(ここまで60秒)